

令和2年度
決算説明資料

令和3年10月7日

環境局

目 次

	頁
1 タブレット会議システムの導入 -----	1
2 中小規模事業所向け省エネルギー相談 -----	2
3 環境保全・省エネルギー設備資金融資の実績 -----	3
4 公用車への次世代自動車導入状況 -----	4
5 市内の次世代自動車普及状況 -----	5
6 環境局における森林環境譲与税充当事業 -----	6
7 集団資源回収の実施状況 -----	7
8 紙資源一括収集の実証実験結果 -----	8
9 プラスチックごみ削減の取り組み -----	10
10 食品ロス削減の取り組み -----	11
11 保健環境委員会からの要望事項 -----	12
12 保健環境委員の欠員状況 -----	14
13 ごみ・資源の市収集量 -----	15
14 資源ステーションにおける事故件数等 -----	16
15 資源ステーションの看板設置状況 -----	17
16 小型家電の回収状況 -----	18

1 タブレット会議システムの導入

区 分	内 容
趣 旨	<p>幹部会等の庁内会議を、タブレット端末を用いたペーパーレスで行うことにより、庁内で使用するコピー用紙の削減に取り組む。</p>
概 要	<p>タブレット会議システムのサーバーとタブレット端末を無線LANで接続し、会議参加者間で資料を共有することにより、ペーパーレスの会議を実現する。</p> <p>インターネット接続やLANケーブル設置が不要なため、会議室のネットワーク設備の整備状況に関係なくシステムを利用できる。</p> <p>システム構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サーバー用ノートパソコン 2台 ・タブレット端末（11インチ） 40台 ・タブレット端末（10.2インチ） 25台
導入時期	令和2年8月
実 績	利用回数 164回
効 果	用紙削減枚数 115,410枚（A4換算）

（注）実績と効果は、令和2年8月から令和3年3月までの数値である。

2 中小規模事業所向け省エネルギー相談

(1) 訪問相談

区 分	内 容
概 要	事業所を個別に訪問し、パンフレット等を活用して、省エネに関するアドバイスや情報提供等を実施
対 象	延べ面積1,000m ² 以上の建築物等の所有者
対 応 者	事業者環境推進員13名 (再任用職員及び会計年度任用職員)
訪 問 件 数	1,155件
主な相談内容	<ul style="list-style-type: none"> ・自社の省エネ活動につながるヒントが欲しい ・省エネ設備を導入する際に利用できる補助制度の情報が欲しい

(2) 相談窓口

区 分	内 容
概 要	電話やメール等で気軽に相談できる相談窓口を設けることで、活動の「きっかけ」を提供し、それぞれの事業規模に応じ無理なく取り組める対策を助言
対 象	中小規模事業所
対 応 者	一般財団法人省エネルギーセンター東海支部に登録されたエネルギー合理化専門員
相 談 件 数	11件
主な相談内容	<ul style="list-style-type: none"> ・省エネ対策を実施したいが、何から手をつけたらよいかわからない ・補助金を利用して省エネ機器に更新したい ・最新の省エネ技術の情報を知りたい

3 環境保全・省エネルギー設備 資金融資の実績

主な区分	内 容	令和元年度		令和2年度	
		件 数 (件)	金 額 (千円)	件 数 (件)	金 額 (千円)
公害防止	公害防止の設備設置等	—	—	—	—
地球温暖化対策	省エネルギーへの設備入れ替え	—	—	1	1,000
自動車対策	ディーゼル貨物車等の買替え	1	6,300	3	32,700
	次世代自動車の購入	1	3,300	2	5,000
合 計		2	9,600	6	38,700

4 公用車への次世代自動車導入状況

次世代自動車の区分	令和元年度	令和2年度
電 動 車	116台 (3.7%)	113台 (3.6%)
Z E V	30台 (1.0%)	30台 (1.0%)
燃料電池自動車	17台	17台
電気自動車	6台	6台
プラグインハイブリッド自動車	7台	7台
ハイブリッド自動車	86台	83台
天然ガス自動車	46台	43台
クリーンディーゼル車	508台	564台
合 計	670台 (21.6%)	720台 (23.2%)

(注1) 括弧内の数値は、公用車台数（令和元年度：3,104台、令和2年度：3,110台）に対する割合である。

(注2) クリーンディーゼル車には、平成21年規制以降の規制適合ディーゼル車を含む。

(注3) 数値は各年度末時点の台数である。

5 市内の次世代自動車普及状況

次世代自動車の区分	令和元年度	令和2年度
電 動 車	約26万2千台 (21%)	約28万1千台 (23%)
Z E V	7,426台 (0.6%)	8,035台 (0.6%)
燃料電池自動車	421台	486台
電気自動車	3,284台	3,483台
プラグインハイブリッド自動車	3,721台	4,066台
ハイブリッド自動車	約25万5千台	約27万3千台
天然ガス自動車	約400台	約300台
クリーンディーゼル車	66,939台	74,535台
合 計	約33万台 (27%)	約35万6千台 (29%)

(注1) 括弧内の数値は、市内の自動車保有台数(約124万台)に対する割合である。

(注2) ハイブリッド自動車及び天然ガス自動車の台数は、軽自動車の台数が推計のため概算値である。

(注3) クリーンディーゼル車には、平成21年規制以降の規制適合ディーゼル車を含む。

(注4) 数値は各年度末時点の台数である。

6 環境局における森林環境譲与税 充当事業

事業名	令和元年度		令和2年度	
	経費 (千円)	参加者数 (人)	経費 (千円)	参加者数 (人)
里山林等の調査 から学ぶ生物多様性	1,320 (1,000)	204	1,066 (1,066)	235
森林保全作業体験 から学ぶ生物多様性	488 (488)	32	372 (372)	24
森林保全に係る 講座等の開催	5,298 (5,000)	2,237	4,799 (4,799)	1,858
間伐材を使った ワークショップ	864 (800)	—	958 (958)	1,127
合計	7,970 (7,288)	2,473	7,195 (7,195)	3,244

(注) 括弧書きは森林環境譲与税充当額である。

7 集団資源回収の実施状況

(1) 回収品目

区 分	回 収 品 目
一 般 方 式	紙類（新聞、雑誌、段ボール、紙パック）、 布類、びん類、金属類のうち、いずれか1品目 以上を回収
学区協議会方式	紙類（新聞、雑誌、段ボール、紙パック）、 布類、びん類、金属類のうち、紙類及び布類を 必ず回収

(注) 雑誌には雑がみを含む。

(2) 実施団体数

区 分	団 体 数
一 般 方 式	2, 4 6 0
学区協議会方式	1 6 9
抛 点	3 8
各 戸	1 3 1
合 計	2, 6 2 9

(注) 令和2年度実績である。

8 紙資源一括収集の実証実験結果

(1) 実証実験の趣旨

高齢化等の社会情勢の変化に対応し、「分かりやすい・分けやすい」分別区分とすることで、分別・リサイクルを推進するため、紙製容器包装及び雑がみを合わせた紙資源での一括収集の実証実験を行った。

(2) 実証実験の方法

令和2年8月から9月に市内2学区において、紙製容器包装のうち製紙原料とならないものを含む方式と除く方式でそれぞれ調査を行った。

守山学区	
道徳学区	

(3) 収集量の変化

区 分	実証実験前	実証実験中	増加率
守山学区	154.0kg (26.7kg)	166.7kg (58.7kg)	+8% (+120%)
道徳学区	130.5kg (22.9kg)	157.3kg (41.5kg)	+21% (+81%)

(注1) 収集量は、市収集及び集団資源回収における紙製容器包装（製紙原料とならないものを含む）及び雑がみの合計量を示す。

(注2) 括弧内は、雑がみの量を示す。

(4) アンケートの概要

区 分	内 容
期 間	令和2年9月25日から令和2年10月9日
回答方法	郵送及びFAX
対象世帯	8,870世帯
回 答 数	1,724件 (回答率: 19.4%)

(5) アンケートの結果

設 問	結 果	
	守山学区	道徳学区
実証実験期間中に、「紙製容器包装」と「雑がみ」をどのように出しましたか？	<ul style="list-style-type: none"> ・市の紙資源収集 74.7% ・集団資源回収 26.9% 	<ul style="list-style-type: none"> ・市の紙資源収集 63.3% ・集団資源回収 34.5%
「紙製容器包装」と「雑がみ」を合わせた分別についてどう思いますか？	<ul style="list-style-type: none"> ・まとまった量ができるようになったので出しやすい はい 69.2% いいえ 17.7% 	<ul style="list-style-type: none"> ・まとまった量ができるようになったので出しやすい はい 65.2% いいえ 19.6%
	<ul style="list-style-type: none"> ・分別がわかりやすい はい 68.4% いいえ 17.9% 	<ul style="list-style-type: none"> ・分別がわかりやすい はい 66.9% いいえ 17.2%
	<ul style="list-style-type: none"> ・分別の種類が減り、保管場所を確保しやすい はい 60.4% いいえ 18.9% 	<ul style="list-style-type: none"> ・分別の種類が減り、保管場所を確保しやすい はい 58.2% いいえ 19.3%
「紙製容器包装」と「雑がみ」を合わせた分別に変更することについてどう思いますか？	<ul style="list-style-type: none"> ・変更したほうがよい 42.0% ・どちらかといえば変更した方がよい 15.1% ・どちらでもよい 21.3% ・どちらかといえば変更しないほうがよい 8.6% ・変更しないほうがよい 10.6% 	<ul style="list-style-type: none"> ・変更したほうがよい 34.1% ・どちらかといえば変更した方がよい 15.2% ・どちらでもよい 26.5% ・どちらかといえば変更しないほうがよい 10.2% ・変更しないほうがよい 11.4%

9 プラスチックごみ削減の取り組み

区 分	主 な 内 容
市民の意識啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・ SNS等を活用した、使い捨てプラスチックを使用しないライフスタイルの実践を呼びかけるキャンペーンの実施 ・ プラスチックごみの問題や、使い捨てプラスチック削減に関する動画配信 ・ マイボトル、マイカップの利用促進運動 ・ 協定事業者と連携したレジ袋有料化の取り組み
庁内の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「名古屋市啓発物品の調達に係るプラスチックごみ削減に関する方針」による使い捨てプラスチックの削減

10 食品ロス削減の取り組み

区 分	内 容	決 算 額 (千円)
食 品 口 入 削 減 月 間	<ul style="list-style-type: none"> ・川柳コンテスト ・食品ロス削減料理動画の配信 ・民間企業と連携した料理講座 	4,257
フ ー ド ド ラ イ ブ	回収量：1,652kg 提供者：284人 回収場所：環境学習センター、なごや 生物多様性センター等	—
食 べ 残 し ゼ ロ 協 力 店	登録数：139店舗（令和3年3月末）	619
そ の 他	家庭でできる取り組み及び外食時の食 べきりの周知（動画・ポスター作成等）	980
合 計		5,855

（注）決算額の単位未満は四捨五入としたため、総額と内訳の合計が一致しない。

1 1 保健環境委員会からの要望事項

(1) 令和元年度

区分	要望事項
市	資源とごみの分別マナーの徹底と新たな取り組みについて
千種	カラスの被害防止対策について
東	資源・ごみ分別マナーの徹底について
北	資源・ごみの分別徹底について
西	資源の各戸収集について
中村	紙製容器包装と雑がみの一括収集及び資源の各戸収集の実施について
中	食品ロスの削減に向けた取り組みの推進について
昭和	共同住宅入居者に対するごみ・資源適正排出の徹底について
瑞穂	分別指導と資源の各戸収集について
熱田	ごみ・資源の適正排出の徹底等について
中川	資源ステーションにおける適正な排出について
港	資源とごみの分別徹底について
南	転入者に対する資源とごみの分別マナーの徹底及び資源の各戸収集について
守山	共同住宅における資源とごみの分別徹底について
緑	資源とごみの分別徹底について
名東	ごみの減量及びごみ・資源分別の徹底について
天白	資源の各戸収集の実施について

(注) 環境局関連の要望事項に限る。

(2) 令和2年度

区 分	要 望 事 項
市	—
千 種	カラスの被害防止対策について
東	資源・ごみ分別マナーの徹底について
北	資源・ごみの分別徹底について
西	資源の各戸収集について
中 村	紙製容器包装と雑がみの一括収集及び資源の各戸収集の実施について
中	プラスチックごみについて
昭 和	ごみ・資源の分別にかかる啓発について
瑞 穂	分別指導と資源の各戸収集について
熱 田	ごみ・資源の適正排出の徹底等について
中 川	プラスチックの3R推進について 環境事業協力指導謝金の見直しについて
港	資源とごみの分別徹底について
南	転入者に対する資源とごみの分別マナーの徹底について
守 山	「資源になるごみ」の分別排出・回収制度の確立に向けて
緑	資源とごみの分別徹底について
名 東	ごみの減量及びごみ・資源分別の徹底について
天 白	資源の各戸収集の実施について

(注) 環境局関連の要望事項に限る。

1 2 保健環境委員の欠員状況

(単位：人)

区 分	定 数	現在員数	欠員数
千 種	6 1 3	6 0 0	1 3
東	2 8 0	2 7 3	7
北	6 3 1	6 1 1	2 0
西	5 3 2	5 1 9	1 3
中 村	5 8 8	5 8 0	8
中	3 2 7	3 1 8	9
昭 和	4 6 8	4 5 5	1 3
瑞 穂	4 3 4	4 2 6	8
熱 田	2 4 4	2 2 4	2 0
中 川	6 6 9	6 4 5	2 4
港	4 8 9	4 7 2	1 7
南	5 5 6	5 4 4	1 2
守 山	3 9 4	3 8 1	1 3
緑	5 5 2	5 4 4	8
名 東	4 0 3	3 8 9	1 4
天 白	3 7 3	3 5 8	1 5
合 計	7, 5 5 3	7, 3 3 9	2 1 4

(注) 令和2年4月1日現在の状況である。

13 ごみ・資源の市収集量

(単位：トン)

区 分		令和元年度	令和2年度	増 減
ご み	可 燃 ご み	382,713	385,040	2,327
	不 燃 ご み	18,527	20,047	1,520
	粗 大 ご み	8,848	9,973	1,125
	環 境 美 化 等	2,007	2,090	83
	小 計	412,095	417,149	5,054
資 源	空 き び ん	13,625	14,263	638
	空 き 缶	2,937	3,302	366
	ペ ッ ト ボ ト ル	9,280	9,530	251
	紙 製 容 器 包 装	8,756	8,527	△229
	プ ラ ス チ ッ ク 製 容 器 包 装	26,089	27,361	1,273
	小 型 家 電 等	268	314	46
	小 計	60,954	63,298	2,345
合 計		473,049	480,447	7,399

(注) 数値の単位未満は四捨五入としたため、総数と内訳の合計が一致しない場合がある。

1 4 資源ステーションにおける事故 件数等

(1) 看板及び収集容器の飛散による事故件数

(単位：件)

区 分	令和元年度	令和2年度
看板飛散 による事故	1	0
収集容器飛散 による事故	1	0
合 計	2	0

(2) 保健環境委員の負傷件数

(単位：件)

令和元年度	令和2年度
0	1

15 資源ステーションの看板設置状況

(単位：箇所)

区分	設置あり	設置なし
千種	557	297
東	168	164
北	368	126
西	521	143
中村	249	393
中	92	384
昭和	162	246
瑞穂	333	119
熱田	178	154
中川	781	57
港	377	106
南	409	312
守山	413	78
緑	697	320
名東	582	201
天白	471	282
合計	6,358	3,382

(注1) 共同住宅に設置された資源ステーションを除く。

(注2) 令和3年3月末現在の箇所数である。

1 6 小型家電の回収状況

(1) 回収量

(単位：トン)

令和元年度	令和2年度
170	211

(2) 回収ボックスの設置状況

区 分	箇所数
区役所及び支所	22
スーパーマーケット	17
ホームセンター	11
家電量販店等	6
合 計	56

(注) 令和3年3月末現在の箇所数である。